

都市再生整備計画(第5回変更)

てがらやまちゅうおうこうえんしゅうへん その2 ちく
手柄山中央公園周辺(その2)地区

ひょうごけん ひめじし
兵庫県 姫路市

令和7年6月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☒
都市再生整備計画事業	☐
まちなかウォーカブル推進事業	☐

目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	兵庫県	市町村名	姫路市	地区名	テガラヤマチュウオウコウエンシユウヘン 手柄山中央公園周辺(その2)地区	面積	50.7 ha
計画期間	令和2年度～令和8年度	交付期間	令和2年度～令和8年度				

目標 大目標: 自然と人が集い、にぎわう手柄のまちを目指して 目標1: 新駅を中心とした交通利便性の高いまちづくり 目標2: スポーツを活かした市民交流のステージづくり 目標3: 災害から「命」と「くらし」を守るまちづくり
目標設定の根拠 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 本市では、姫路駅を中心に各種交通機関や商業・業務機能が集中し、播磨地域における社会経済活動の中心地として発展してきた。しかしながら、モータリゼーションの進展等を背景とした市街地の拡大、少子高齢化に伴う人口減少等を背景に中心市街地の空洞化が進み、都市のにぎわいが低下している。こうしたことから、中心市街地において、公共が保有する低未利用地を活用して、文化交流施設や病院等の整備を行うほか、手柄山中央公園の再整備など老朽化した公共施設の更新を行いながら、まちの魅力を向上し、にぎわい向上による、さらなる商業機能や医療機能、福祉又は利便施設の集積など、都市機能の拡散防止と公共・公益サービスの機能の維持を図る。 一方、既成市街地外縁部の住宅地では、人口減少、居住者の高齢化が顕著であり、エリア毎に人口密度を維持し、経済力の維持・強化や地域コミュニティの維持・活性化を図る必要がある。このため、公共交通(駅・バス停)を拠点として、都心部や地域生活圏とのネットワーク化や公共交通網の充実を図りながら、ものづくり力の維持・強化につながる労働人口の増加に取り組むとともに、歩行者空間の確保や若者の転出超過の解消、子育てしやすい環境づくり、元気な高齢者の増加に取り組む。 公的不動産の活用策として、郊外移転した鉄道車両基地跡地を活用して、民間病院と統合した新たな県立病院や文化交流施設の整備を図り、当該文化交流施設の移転後に公園施設を整備するなど、中心市街地内部で移転建て替えを順次玉突きに実施することで、都市機能の拡散防止と公共不動産の有効活用を図る。
まちづくりの経緯及び現況 【経緯】 ・本地区は、中心市街地における(都)手柄山中央公園(総合公園)を中心とした地域で、世界遺産姫路城を擁する姫路公園と共に、まちなかの貴重な憩いの空間としての役割を果たしてきた。 ・両公園は、市を代表する緑豊かな大規模公園で、古くからの歴史と愛着から、その周辺には市民が居住し、商業も発展するなど、一体的な市街地を形成してきた。 ・昭和41年の姫路大博覧会の開催にあわせた都市基盤の整備をきっかけに、(都)手柄山中央公園周辺では商業施設の進出や宅地化がさらに進化した。 ・市街化に伴い、緑の重要性が意識されるなか、(都)手柄山中央公園は「核となる緑」、姫路公園は「緑のシンボルエリア」をそれぞれの将来像としており、住みよい都市づくりに必要不可欠な存在となっている(緑の基本計画)。 ・本地区周辺の道路網として、地区の北側には(都)延末線が東西方向に、中央部には(都)手柄山線が東西方向に、西側には(都)中央南北幹線が南北方向に整備され、広域的な自動車交通の連携に資している。 ・公共交通として、地区外に山陽電鉄手柄駅が近傍しているが、道路の整備が進んでいることもあり、本地区へのアクセスは、自動車交通が主流となっている。 ・公園内には、スポーツの拠点として、姫路球場、中央体育館、陸上競技場、市民プール、県立武道館、平和学習の拠点として、太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔、平和資料館を備えるとともに、回転展望台、水族館、緑の相談所、温室植物園など多種多様な公園施設が集積し、本市におけるスポーツ・文化の中心的な役割を担ってきた。 ・本公園は、災害時に中播磨地域における救援・救護、復旧活動等の拠点としての機能を果たす広域防災拠点に位置付けられている。 【現況】 ・人口減少、少子高齢化社会を背景とした、低密度な市街地の形成等の進展により、一定の人口集積に支えられてきた商業や医療などの都市機能の低下が懸念されている。 ・JR姫路駅周辺等においては都市構造の再編が進み、多くのにぎわいが生まれるなか、本地区周辺の道路、公園等の都市施設は、整備から数十年が経過して老朽化していることや、社会情勢の変化、市民ニーズの多様化、高度化などにより、本地区の魅力が低下しており、まちのにぎわいに陰りが見えはじめている。 ・本地区内において、JR姫路・英賀保駅間新駅の設置が予定されており、公共交通を活かした交通利便性に富んだまちづくりへの期待が非常に高い。 ・(都)手柄山中央公園については、新たな玄関口となる新駅が整備されることから、本市におけるスポーツの拠点、にぎわいの拠点として再整備に多くの期待が寄せられている。(立地適正化計画、手柄山中央公園整備基本計画)。 ・県立武道館において、東京オリンピック、パラリンピックにおけるフランス柔道代表の事前合宿地として決定したことを契機に市民のスポーツへの関心が高まっている。 ・近年、地震、豪雨による風水害、土砂災害及び高潮災害が各地において頻発しており、自然災害等に対する強靱化の視点から効果的かつ重点的な社会基盤整備の推進と、事前防災や発災時における被害の低減を図るための取り組みが求められている。
課題 ・施設の老朽化や社会情勢の変化、市民ニーズの多様化、高度化などにより、地区の魅力、まちのにぎわいが低下している。 ・公共交通における来訪者が少ないことから、自動車交通が多く、特にイベント時において、渋滞の発生頻度が高い。また、公共交通利用者の歩行者空間や動線が確保できていない。 ・JR山陽本線が歩行者交通、地区を分断している。 ・市の代表的な運動施設(姫路球場、中央体育館、陸上競技場、市民プール、県立武道館)が集積するが、公共交通機能が充実していない。 ・運動施設が老朽化し、且つ他地区に点在しているため施設の集約が必要である。 ・新駅等の整備により生活道路への通過交通流入が懸念されている。 ・災害時に救援・救護、復旧活動等の拠点となる施設の整備が行われていない。

○姫路市総合計画(H21.3)・・・本地区の中心である(都)手柄山中央公園は「自然豊かで快適な環境・利便都市」という基本目標を実現するための施策として、「都心部近郊にある緑とスポーツの拠点」として整備すると位置づけている。

○姫路市都市計画マスタープラン(H27.3)・・・(都)手柄山中央公園は、本市の緑の拠点であり、スポーツ及びレクリエーションの場として利用環境の向上を図ることとしている。

○姫路市総合交通計画(H28.3)・・・公共交通サービスの維持・向上、環境への対応のため、公共交通の利用者数を増加させることとしている。

○姫路市立地適正化計画(H30.3)・・・本地区は立地適正化計画による都市機能誘導区域の中心拠点であり、中心市街地活性化の施策として、(都)手柄山中央公園の再整備を行うこととしている。また、中心拠点への都市機能増進施設として広域防災施設を誘導することとしている。

○姫路市緑の基本計画(H24.3)・・・(都)手柄山中央公園は、本市の「核となる緑」として位置づけており、スポーツ拠点や広域防災拠点として整備を進める。

○姫路市地域防災計画(H29.10)・・・(都)手柄山中央公園は、広域防災拠点として、大規模災害時における中播磨地域全体への救援・救護、復旧活動等の拠点として位置づけている。

○広域連携・・・2市2町(姫路市、たつの市、太宰町、福崎町)による「中播磨圏域の立地適正化の方針」(H29.3)において、総合公園である(都)手柄山中央公園は、スポーツ施設等の都市機能の役割に位置づけている。

○手柄山中央公園整備基本計画(H29.1)・・・平成28年度に策定し、令和7年度までを前期、それ以降を後期とし、前期においては、スポーツ施設の統廃合や改修による本市のスポーツ拠点としての充実させるとともに、新駅構想による公共交通機関の充実と駅前広場の整備等による集客力の向上などにより、本市全体の賑わいを創出し、地域の活性化を図ることとしている。また、後期においては、公園施設の再配置・改修を行い、さらなる賑わいの創出と地域の活性化を図ることとしている。

○手柄山スポーツ施設整備基本計画(H31.3)・・・手柄山中央公園整備基本計画に基づく、スポーツ施設の整備について、本市スポーツの拠点に相応しい施設を目指して、施設の整備方針、構成、想定規模等を策定し、スポーツを通じて市民交流の活性化を図ることとしている。

○姫路市強靱化計画(R2.6)・・・(都)手柄山中央公園は本市唯一の広域防災拠点であり、救援物資等の配送拠点として、耐震化施設の整備を進める

都市機能配置の考え方

- ・中心市街地は、本市が歴史的に播磨地域の中心都市であった経緯から、鉄道駅やバスターミナルといった公共交通の結節機能、百貨店や商店街、企業の支店等を中心とした経済機能、市民会館や駅市役所等の公共公益機能をもとより有しているところであるが、まちの賑わい及び感動の創出並びに地域経済の活性化に寄与するため、文化交流機能の充実を図る。
- ・既成市街地外縁部については、人口減少、高齢化の傾向が顕著な地域であるため、ものづくり力の維持・強化につながる労働人口の増加に積極的に取り組むとともに、歩行者空間の確保や若者の転出超過の解消、子育てしやすい環境づくり、元気な高齢者の増加に取り組むことにより経済力の維持・強化や地域コミュニティの維持・活性化を図る。
- ・郊外部については、自然環境との調和や居住環境の保全、地域資源や既存の都市施設を活かした土地利用を図る。
- ・本事業区域は、中心市街地の中でも多世代の市民に愛着があり、かつ周辺地域に鉄道駅を複数擁した地域であることから、本市における中心的な役割を将来においても担うに相応しい環境として、都市機能や居住機能のさらなる充実を期待されているところである。このことから、隣接する地域と連携を図りながら、新駅や公園の整備による立地の適正化を推進し、人口減少社会にあっても持続可能で、災害時においても安心して対応することができる強い姫路のまちづくりを目指し、都市の構造を再編するものである。

指 標	単 位	定 義	目 標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目 標 値	目 標 年 度
鉄道による公園利用者の増加	%	公園利用者を対象とした対面式でのアンケート調査における交通手段において、鉄道と回答した人の割合	交通利便性の向上による公共交通への転換を図る効果の波及として、鉄道利用者による公園利用者の増加を目指す。	1.8	H29	16.3	R8
公園利用者の増加	人/年	(都)手柄山中央公園全体の利用者数を調査(閉鎖予定の文化センターを除く)	市民交流の活性化による公園を含めた地区全体への効果の波及として、公園利用者数の増加を目指す。	1,339,129	H30	1,691,128	R8
公園の利用頻度の増加	%	公園利用者を対象とした対面式でのアンケート調査における利用頻度において、月に1回以上と回答した人の割合	交通利便性及び歩行快適性、施設利便性の向上による利用満足度の効果の波及として、公園利用頻度の増加を目指す。	30	H29	38	R8

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【整備方針1 新駅を中心とした交通利便性の高いまちづくり】 ◎本地区におけるJR山陽本線の姫路・英賀保駅間新駅の整備にあわせて、その効果を最大限に波及させるため、都市施設の整備を行い都市機能と居住の誘導を図る。 ◇本地区は、JR姫路駅と英賀保駅の間に位置し、公共交通におけるアクセスが脆弱であることから、このたびの新駅の整備によって鉄道からのアクセスを可能とし、加えて南北駅前広場及びそれに付随する自転車駐車場を整備することで、交通結節機能を確保する。また、南北駅前広場をつなぐ自由通路を整備して、南北市街地の分断を解消するとともに、整備済みの(都)延末線、(都)本線高架側道1号線、荒川18号線については、既成市街地と駅とのアクセスがスムーズになるよう改築し、地区全体の交通利便性の向上を図る。生活道路である荒川18号線については、通過交通の流入が懸念されていることから、(都)本線高架側道1号線へ誘導する西延末地内新設道路を整備して、交通を適切に誘導し、地域の安全を確保する。 ◇本市では、立地適正化計画により、鉄道駅等を核とした、多核連携型の持続可能な都市構造の構築を目標としており、本地区においては、山陽電鉄手柄駅とこのたび整備する姫路・英賀保駅間新駅の2駅を核に、中心市街地にふさわしい活力ある都市部の形成を図るとともに、公共交通の利便性を高め、自動車交通から公共交通への転換を図る。 ◇姫路・英賀保駅間新駅の整備にあわせて都市施設の整備を行うことで、周辺地域と一体的に商業・医療などの都市機能を誘導し、市民が生活利便サービスを安心して享受できる環境を維持するほか、子育て世代などの若い世代にも魅力的な住環境を提供することで、居住を誘導し立地の適正化を図る。		道路:(都)延末線 道路:(都)本線高架側道1号線 道路:荒川18号線 道路:西延末地内新設道路 地域生活基盤施設:姫路・英賀保間新駅自転車駐車場(自転車駐車場) 地域生活基盤施設:姫路・英賀保間新駅自由通路(人工地盤) 地域生活基盤施設:情報板整備事業(情報板)
【整備方針2 スポーツを活かした市民交流のステージづくり】 ◎本地区の中心に位置する(都)手柄山中央公園は、本市における代表的な運動施設を集積しており、さらなる市民交流の活性化のため、多様なニーズに対応できる拠点性の高いスポーツ施設の整備を行う。 ◇東京オリンピック等によりスポーツへの関心が高まるなか、本地区の地区外に隣接する姫路市立総合スポーツ会館及び本地区内の姫路市民プールは、共に建築から長年が経過して、老朽化が著しく、利用者が低下傾向である。このことから、このたび整備を行う新体育館、新市民プールについては、本市におけるスポーツの拠点、にぎわいの拠点として、多様な市民ニーズを取りこんだ、魅力のある施設とし、市民の「みるスポーツ」、「するスポーツ」、「支えるスポーツ」を通して市民交流を活性化する。 ◇新体育館、新市民プールにおいては、姫路市立総合スポーツ会館の機能を本地区へ移転集約させることから、公的不動産の活用に寄与するとともに、コンパクトシティを実現する。 ◇にぎわいひろばについては、新駅駅前の立地を活かし、年間利用者数10万人以上を目標とした魅力あるプール施設の整備を行う。また、民間ノウハウを活用し、夏季以外の利用にも配慮した施設配置を行うことで、年間を通した多くのにぎわいづくりにつなげていく。 ◇新体育館、新市民プール及びにぎわいひろばについては、南北幹線デッキ及び施設間デッキによって新駅自由通路と直結し、大規模大会時における大人数の安全で円滑な移動空間の確保や高齢者、障害者をはじめとした誰もが快適に移動することができるバリアフリー空間を確保するなど、本市におけるスポーツの拠点にふさわしい利用環境の整備に努める。		公園:手柄山中央公園整備事業 地域生活基盤施設:南北幹線デッキ及び施設間デッキ(人工地盤) 地域生活基盤施設:情報板整備事業(情報板) 地域創造支援事業:にぎわいひろば整備事業
【整備方針3 災害から「命」と「暮らし」を守るまちづくり】 ◎本地区の中心に位置する(都)手柄山中央公園は、広域防災拠点に位置付けられており、自然災害に対する強靱化のため、防災機能の強化により、災害に強い市街地の形成を図る。 ◇新体育館においては、救援物資、復旧資機材の集積・配送拠点となることから、物資搬入搬出用動線や集配送機能を確保するなど、防災機能を強化する。 ◇手柄山中央公園周辺地区都市構造再編集支援事業によって整備を行う連絡通路と新駅自由通路から直結する南北幹線デッキを園路で接続することで、山陽電鉄手柄駅からの東西軸、新駅からの南北軸の歩行者動線を接続する。東西軸、南北軸には、本事業で整備を行う都市施設や既存の施設(中央体育館、姫路球場など)が接続することとなり、公共交通に公園施設をも巻き込んだ歩行者ネットワークを確立させ、交通利便性と歩行快適性、施設利便性を兼ね備えた、誰もが何度も行きたいまち、誰もがいつでも歩きたいまちを創る。また、これら社会基盤の整備を効率的に推進することで、事前防災の強化と発災時における被害の低減を図り、災害に強い市街地形成につなげる。 ◇自然災害が頻発する中、市民の防災意識の向上と継続につなげるため、指定避難所を標示した情報板の整備を行い、通常時は来街者の快適な街歩きのツールとして、発災時には来街者の円滑な避難を誘導し、被害の低減を図る。		道路:(都)延末線 道路:(都)本線高架側道1号線 道路:荒川18号線 道路:西延末地内新設道路 公園:手柄山中央公園整備事業 公園:手柄山中央公園園路整備事業 地域生活基盤施設:姫路・英賀保間新駅自転車駐車場(自転車駐車場) 地域生活基盤施設:南北幹線デッキ及び施設間デッキ(人工地盤) 地域生活基盤施設:姫路・英賀保間新駅自由通路(人工地盤) 地域生活基盤施設:情報板整備事業(情報板) 地域創造支援事業:にぎわいひろば整備事業
その他		

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

...A

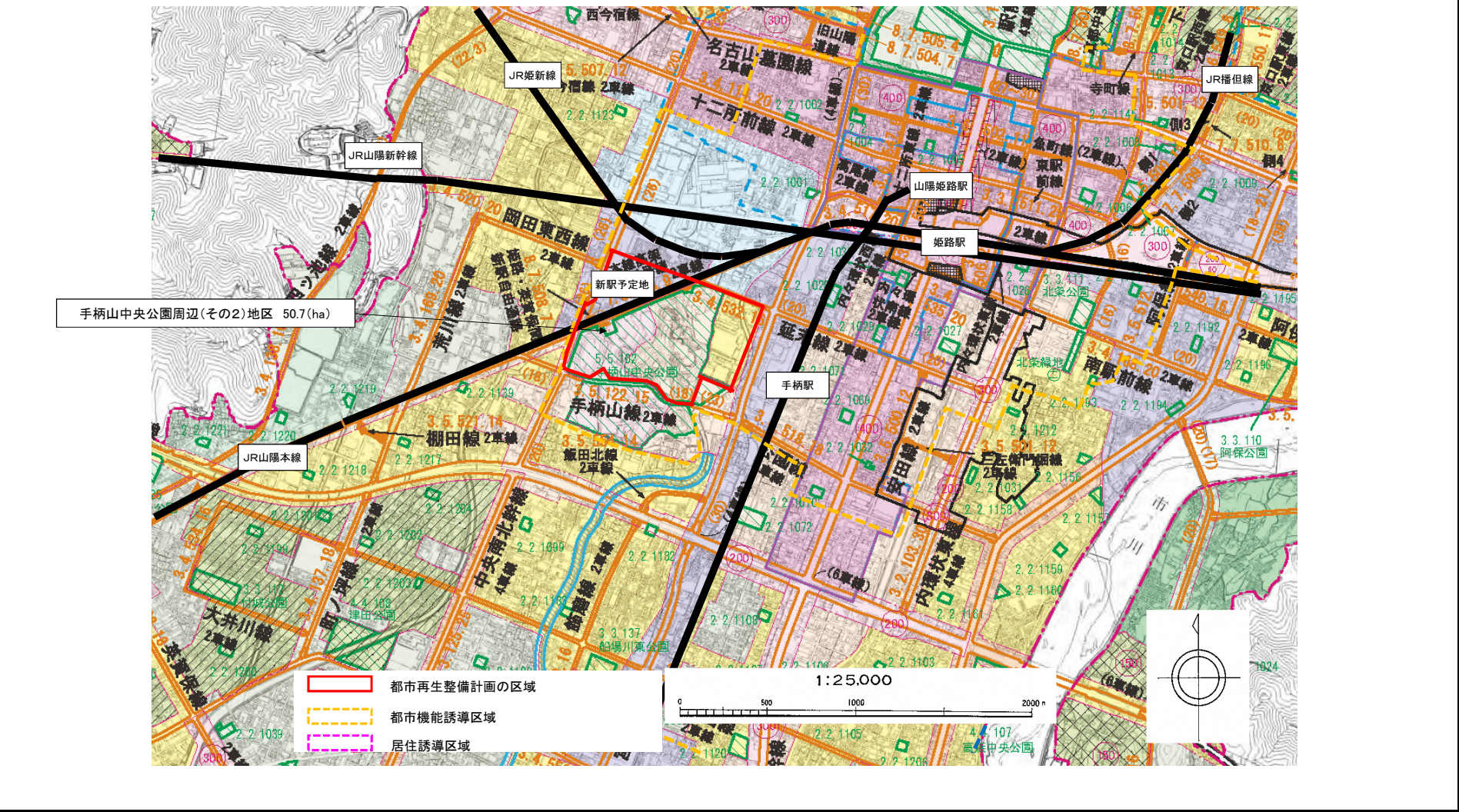
...B

(参考)都市構造再編集中支援事業関連事業

(参考)関連事業

手柄山中央公園周辺(その2)地区(兵庫県姫路市)	面積	50.7 ha	区域	岡田の一部、飯田の一部、中地の一部、西延末の一部、延末の一部
--------------------------	----	---------	----	--------------------------------

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



手柄山中央公園周辺(その2)地区(兵庫県姫路市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	自然と人が集い、にぎわう手柄のまちを目指して ・新駅を中心とした交通利便性の高いまちづくり ・スポーツを活かした市民交流のステージづくり ・災害から「命」と「暮らし」を守るまちづくり	代表的な指標	1 鉄道による公園利用者の増加 (%)	1.8	(H29年度)	→	16.3	(R8年度)
			2 公園利用者の増加 (人/年)	1,339,129	(H30年度)	→	1,691,128	(R8年度)
			3 公園の利用頻度の増加 (%)	30	(H29年度)	→	38	(R8年度)

